

『耕人塾』の活動方針について

『耕人』第1号で、『耕人塾』の活動方針を3点示しました。今回は、この3点の活動方針について、具体的に述べたいと思います。

① 社会貢献への高い「志」を持たせ、討論や実践活動を通して、「人間力」を向上させる。

第1回の研修会で橋本左内の「啓発録」から志を立てることの大切さと「一灯照隅」という言葉から、周りを明るく照らすためには自分自身が輝くことが大切だということを学びました。各自がつかんだ講師の思いや願いについて班別の討論をし、それを各班の代表者に発表してもらいました。各自が学んだことを次の研修会までどのような実践活動に結び付けたか楽しみです。大切なことは、自分の心に自ら灯を点し、主体的に取り組むことであり、日々の実践に生かしていくことです。その繰り返しが「人間力」の向上につながると考えています。

② 「文・武・楽(習・躰・スポーツ趣味)」の体験を通して、人間的な幅と深さを身に付けさせる。

「文武両道」という言葉があります。昔は、「文」は学問、「武」は「武道」だったのですが、今は「武」は武道を含めたスポーツ全般ととらえられています。しかし、精神を鍛えることを主とする武道と楽しさやレクリエーション的要素が強いスポーツや趣味の「楽(ぶく)」を分けた方が良いと思っています。「楽(ぶく)」とは、心身の躍動や喜怒哀楽の素直な表現、生活の中での楽しさや潤いの追究です。スポーツの中には武道的要素を取り入れている種目もありますが、「文・武・楽」三道の視点からとらえるとすっきりします。そして、この三つは人間的な幅と深さを身に付けるためには、どれも大切なものだと考えています。

③ 日本の伝統文化を体験させ、自然や郷土を愛する心を育て、礼儀作法を身に付けさせる。

1922年(大正11年)に日本を訪れたアインシュタイン(ノーベル物理学賞受賞者)は、「日本人の素晴らしさは、きちんとしたしつけや心の優しさにある。日本人はすべての物事に対して物静かで、控えめで、知的で、芸術好きで、思いやりがあり、個人に必要な謙虚さと質素さを兼ね備えている」と絶賛しています。そのような日本人の精神の根底には、縄文時代から自然に対する畏敬の念をもち、人々が互いに協力し合って生きてきた日本人の「和」のDNAが流れているのだと思います。その上に、武士道によって意志力を自律心まで高め、人の生きる倫(みち)を大切にしてきた精神文化や俳句・短歌、茶道・華道などを生活の中に取り入れてきた芸術化の歴史があります。『耕人塾』では、日本の伝統文化の講話や体験等を通して、その良さや深さを実感し、自然や郷土を愛する心を育て、日本人としての礼儀作法を身に付けていくことが国際社会に貢献し、国際社会をリードする人材育成につながると考えています。

「継続は力なり」：志が定まったならば、それを実践に移すための計画が必要です。そのためには、長期・中期・短期の目標を決めることです。短期目標は1か月とすると、それを達成するための1週間の計画と1日の計画が必要です。例えば、朝1時間早く起きて漢字10個覚えるとします。1週間で70個、1か月で300個、1年で3650個の漢字を覚えることになります。現在の常用漢字は2136字なので、かなり難易度の高い漢字もマスターできることになります。正に「継続は力なり」です。皆さんも何か始めてみませんか？早起きは三文の徳です。